

国際交流センター

NEWS

2014.02
tel 026-295-1325

充実した海外研修プログラムを目指して

国際交流センター長 数田 由三子

2013年度の海外研修には56名が参加しました(学部7名、幼教2名、国際コム47名)。夏休み中には、オーストラリア、モンゴル、韓国、台湾で、春休みにはハワイで学生が活発に活動を行いました。

本学の海外研修では、視察型の研修に終わらせず、現地の人たちと密接にかかわるプログラムを目指しています。韓国と台湾では、本学の学術協定校の学生たちの手厚いサポートが、プログラムを通して学生たちの滞在を助けてくれています。オーストラリアでは2週間のホームステイを通して、オーストラリアの家庭や文化に深く触れる機会があります。モンゴルやハワイでも、現地の学生との交流セッションが持たれています。現地の人たちの心づかいや温かさに触れることで、参加学生はさまざまなことを感じています。



台湾にて



ハワイにて



オーストラリアにて

台湾研修に参加した学生は「私が肌で感じたのは、学生たちの親切さだ。いつでも私たちが気にかけてくれて、昼食や他の校舎に移動するときは必ず同行してくれた。授業中も手厚いサポートがあった。台湾の人は相手を楽しめるよう心づかいを忘れない。日本人よりもおとなしの心を持っていると思う」と感想を述べていました。学生の間にも大きな影響を与えてくれると思います。

平成25年度海外研修プログラム実績

研修先	期間	主な内容	参加人数
オーストラリア	H25 8/17～8/31(15日間)	ホームステイをしながら現地語学学校へ通学	4名
韓国	H25 9/2～9/9(8日間)	姉妹校交流、ホームステイ体験、市内観光など	25名
モンゴル	H25 9/7～9/14(8日間)	姉妹校交流、ゲルにてホームステイ体験、市内観光など	4名
台湾	H25 9/12～9/20(9日間)	姉妹校にて英語での授業体験、フィールドトリップなど	13名
ハワイ	H26 2/7～2/23(17日間)	提携大学で英語での授業体験、フィールドトリップなど	10名

モンゴルで日本の役割を再認識

国際COM科1年 藤井治世

異文化に触れてみたいと思いを加し、遊牧と都市との生活の違いを肌で感じたくて、研修先はモンゴルに決めました。

2泊3日のホームステイで遊牧民の生活を体験、ウランバートル市内観光や姉妹校チョイロブサンジャブ言語文明大学と交流しました。大学交流では清泉女学院の紹介や日本について発表をしたり、大学の1年生全員と一緒に郊外見学へ出かけたりしました。

経済成長が著しく、ウランバートルは建設中の建物が非常に多かったのですが、道路や信号などは中心部にしか整備されていません。また、日本と違い、街中も働く人も、大学の先生も若者が大半で、若者が中心になって国を支えているという印象を持ちました。

ゲルでの遊牧生活体験では、互いに助け合って生きることの大切さを学びました。まさに自然との共生です。しかし、経済成長が進み、遊牧民の地が減少しています。引き換えにウランバートルは大都市になり、娯楽施設も増え、豊かな生活を送れるようになっていきます。参加する前は、これからの日本の役割はアジア諸国を経済成長させることだと強く思っていました。その過程で得るものと失うものがあることを目の当たりにし、いろいろな視点で考えていく必要がある



モンゴルにて

交流を通して、互いの文化を尊重することが大切だと思いました。文化の違いに驚くような場面がありました。決して否定せず、理解を示し、現地の文化に合わせることが、とても大事だと思いました。

韓国で学んだコミュニケーションの大切さ

人間学部2年 秋元真衣

民族村で昔の村民の踊りや建築物を見学し、漢陽女子大学の見学と授業体験、ホームステイを行いました。授業体験では、陶器の製作や、チマチョゴリを身に着けて礼儀作法やお茶の作法を学んだり、また日本語通訳科の学生による日本語劇を鑑賞したりしました。途中、2泊3日で清泉の学生1名ずつが一般家庭にホームステイし、日本との違いや宗教の違いを学んだ。



韓国にて

この研修で今まで知らなかったことや考え方を学ぶことができた。その中の一つがコミュニケーション方法。国や言葉は異なっても、自分から行動し、自己開示をしていくことで、相手は心を開いて話しかけてくれることを学んだ。もう一つ学んだことは、自分の意思をはっきり相手に伝えることが大切ということである。私はあまり主張できず、相手の意見に合わせてしまう。ホームステイ先の学生がそれに気付いて私の意見や話を言葉に出しやすくしてくれた。その結果、自分の意見を言うことで嫌われることはなく、一つの意見として受け入れてもらうことができた。考えや主張は言葉に出すことで相手に伝わると学んだ。

7泊8日の研修で、韓国の文化、生活を実際に体験し、日本の良い点を再確認することができた。この体験は今後の生活にも、異文化交流以外にも生かしていきたい。